

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和2年3月30日版

1 実施概要

■実施日時	令和2年2月27日（木）28日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ13名（地域別家庭ごみ組成調査） 女性作業員のべ6名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者男性のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> 同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> 【2月27日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通り10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【2月28日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） 調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約150kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- 調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- 食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- 手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 353.0kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.5kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 72.4kg、②東部地区は 18 袋で 61.9kg、③西部地区は 11 袋で 39.4kg、④南部地区は 16 袋で 70.3 kg、⑤北部地区は 24 袋で 77.4 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 31.6 kg であった。

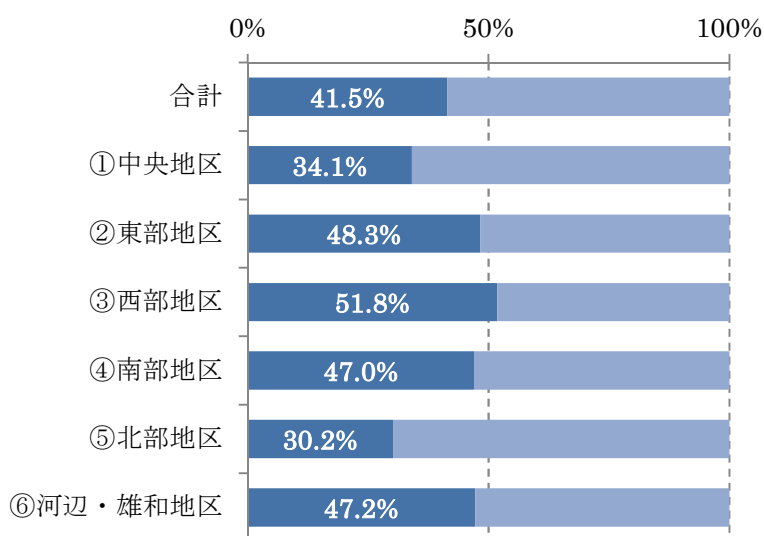
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	353.00	3,365	3.5	33.7
① 中央地区	23	72.43	705	3.1	30.7
② 東部地区	18	61.85	610	3.4	33.9
③ 西部地区	11	39.42	365	3.6	33.2
④ 南部地区	16	70.27	530	4.4	33.1
⑤ 北部地区	24	77.43	795	3.2	33.1
⑥ 河辺・雄和地区	8	31.60	360	4.0	45.0

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 41.5%、地域別に見ると③西部地区が最も高く 51.8%、次いで②東部地区の 48.3%、⑥河辺・雄和地区の 47.2%、④南部地区の 47.0%、①中央地区の 34.1%、北部地区の 30.2%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	353.00	146.36	41.5%	58.5%
①中央地区	72.43	24.70	34.1%	65.9%
②東部地区	61.85	29.88	48.3%	51.7%
③西部地区	39.42	20.43	51.8%	48.2%
④南部地区	70.27	33.04	47.0%	53.0%
⑤北部地区	77.43	23.38	30.2%	69.8%
⑥河辺・雄和地区	31.60	14.93	47.2%	52.8%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

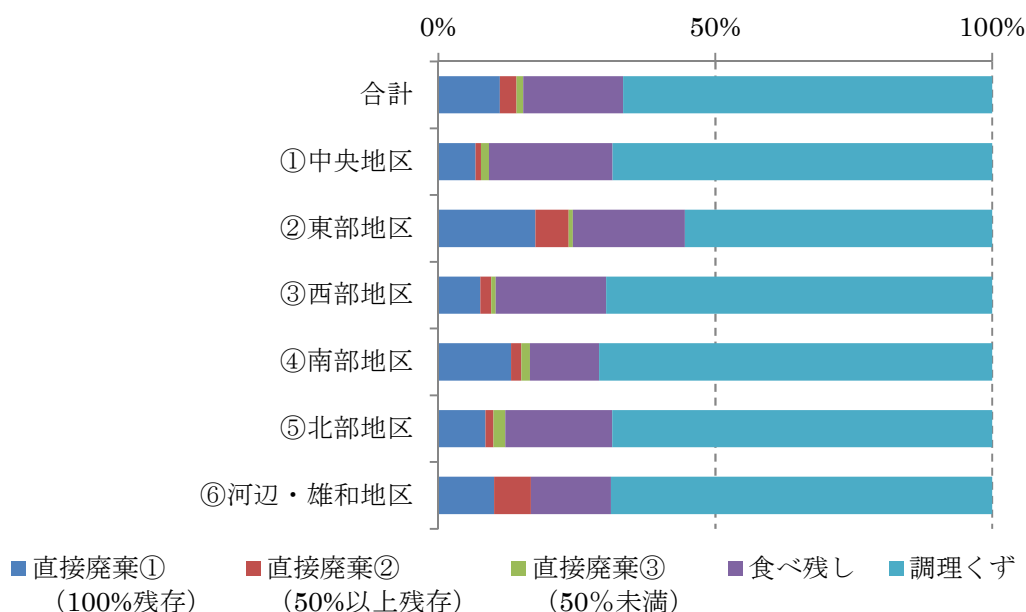
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では31.8%、地区別に見ると②東部地区が最も高く41.9%、次いで⑥河辺・雄和地区の30.3%、⑤北部地区の30.1%、①中央地区の29.7%、③西部地区の28.7%、④南部地区の28.1%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、②東部地区の食品ロスの割合は、④南部地区よりも13.8ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち10.6%を占めており、②東部地区で16.5%と高く、次いで④南部地区が12.7%、⑥河辺・雄和地区が9.8%、⑤北部地区が8.2%、③西部地区が7.2%、①中央地区が6.4%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では17.2%、①中央地区が21.1%と高く、次いで、②東部地区の19.1%、④南部地区が最も低く12.1%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	31.8%	10.6%	2.8%	1.2%	17.2%
①中央地区	29.7%	6.4%	0.9%	1.4%	21.1%
②東部地区	41.9%	16.5%	5.6%	0.7%	19.1%
③西部地区	28.7%	7.2%	1.8%	0.8%	18.9%
④南部地区	28.1%	12.7%	1.8%	1.5%	12.1%
⑤北部地区	30.1%	8.2%	1.3%	2.1%	18.5%
⑥河辺・雄和地	30.3%	9.8%	6.5%	0.0%	14.1%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

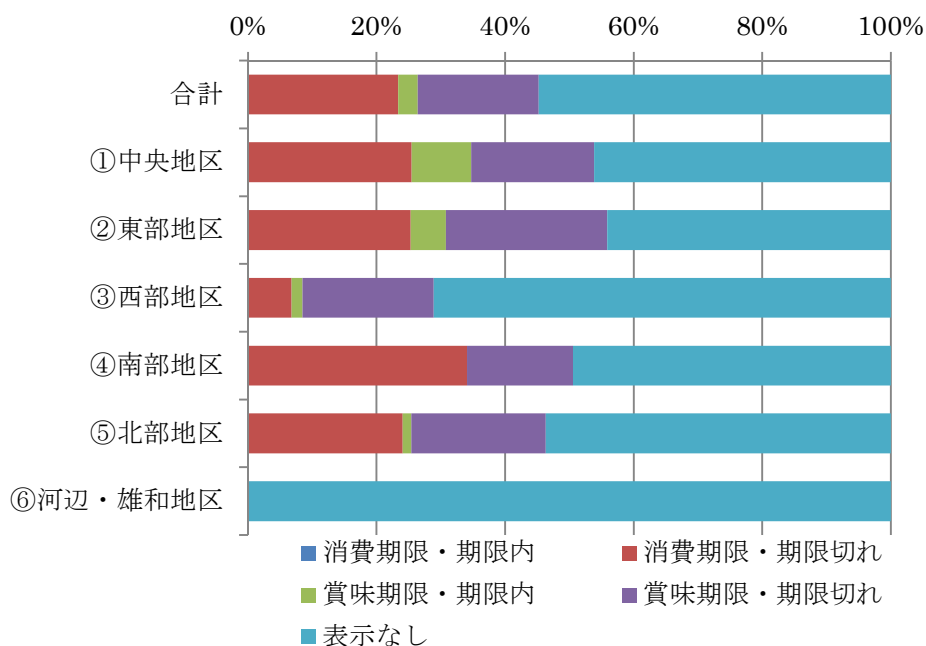
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く54.8%であり、消費期限の表示があったものは23.4%（期限切れのみ）、賞味期限の表示があったものは21.8%（期限内が3.0%、期限切れが18.8%）となっている。

消費期限に着目すると、全ての地区で「期限切れ」のもののみで、④南部地区が34.1%と割合が最も高く、③西部地区が6.8%と最も少なかった。なお、⑥河辺・雄和地区は、消費期限記載の直接廃棄（100%手付かず）が確認されなかった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち3.0%、地区別に見ると①中央地区が最も高く9.2%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	23.4%	3.0%	18.8%	54.8%
①中央地区	0.0%	25.5%	9.2%	19.1%	46.2%
②東部地区	0.0%	25.3%	5.5%	25.1%	44.1%
③西部地区	0.0%	6.8%	1.7%	20.4%	71.1%
④南部地区	0.0%	34.1%	0.0%	16.5%	49.5%
⑤北部地区	0.0%	24.1%	1.3%	20.9%	53.7%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

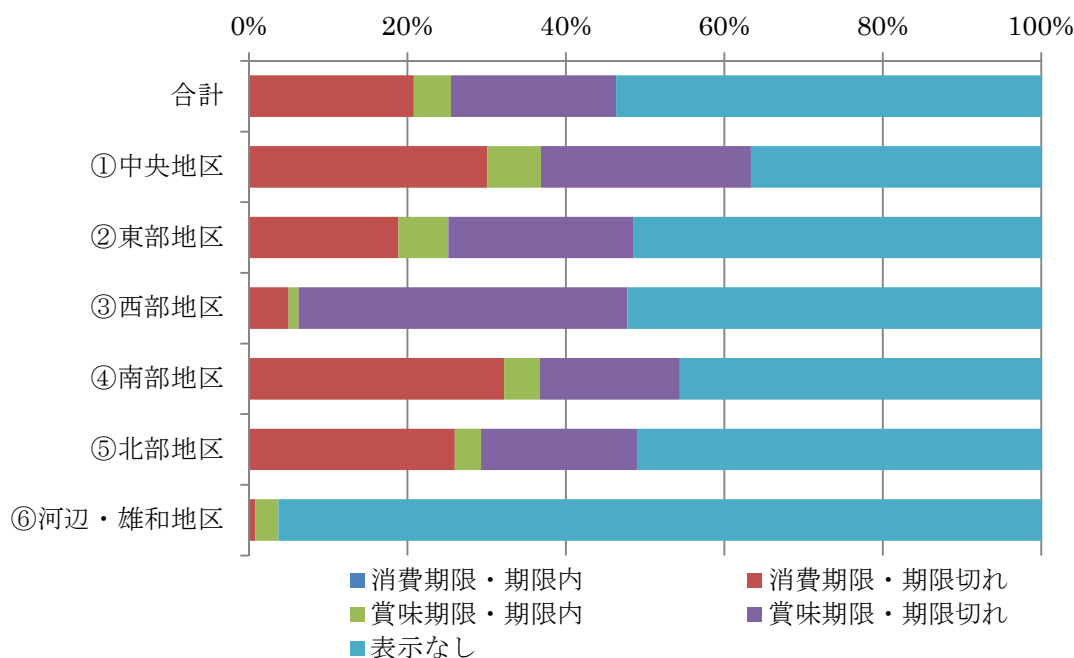
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く53.7%であり、消費期限の表示があったものは20.8%（全て期限切れ）、賞味期限の表示があったものは25.6%（期限内4.7%、期限切れ20.9%）となっている。

消費期限に着目すると、全て「期限切れ」で、④南部地区が32.2%と最も多く、⑥河辺・雄和地区が0.8%と最も少なかった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち4.7%、地区別に見ると①中央地区が最も高く6.8%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	20.8%	4.7%	20.9%	53.7%
①中央地区	0.0%	30.0%	6.8%	26.5%	36.6%
②東部地区	0.0%	18.9%	6.3%	23.3%	51.5%
③西部地区	0.0%	5.0%	1.3%	41.5%	52.3%
④南部地区	0.0%	32.2%	4.5%	17.7%	45.6%
⑤北部地区	0.0%	26.0%	3.3%	19.7%	51.0%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.8%	2.9%	0.0%	96.3%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、平成30年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると65.9g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が30.3g/人・日、食べ残しが35.7g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

